

まちづくりの原点は「自立」まちづくり講演会



▲「住民が地域の良さと問題に気づいていくことが大切」と語る岡崎教授

大山町では、昨年度から地域コミュニティの再生を考えると、住民自治組織について検討を進めています。

2月28日(土)、保健福祉センターなわで法政大学現代福祉学部の岡崎昌之教授を講師に迎え「人口減少時代のまちづくり」と題してまちづくり講演会を開きました。区長やまちづくり推進員ら関係者約70人が集まり、元気なまちづくりについて考えるきっかけになりました。

岡崎教授は「今までにない大規模な合併に人口減と高齢化が加わっている」と説明し、「日本の文化の源である農村部が維持しきれなくなってきた」と指摘。上流部(農山村)が豊かでないと下流部(都市)は衰退するとし「農山村を日本全体でどう支えていくかが大切」と話しました。また、ヨーロッパでは都市より農山村が目ざされているという現状を示し「大山町も今、住民が力をあわせ大山のためになる人を呼びよせ、地域づくりの核にしていけないといけない」と話しました。そして、まちづくりの原点は「自立」だとし「地域の力量を超えるようなことは考えず、身の丈に合った計画を地域の責任で立て、行政がそれを後押ししていくこと」とアドバイスをしました。

参加した70代の男性は「一つずつ地域にあったことを伝承していかなければと思っただ。高齢化社会で難しい問題もあるが、役場と相談して解決していきたい」と感想を話していました。

歌はいいね！

～高齢者学級合同研修会～



2月20日(金)、保健福祉センターなわで3地区合同の交流研修会が行われました。中山の「ふれあい大学」、名和の「ことぶき学級」、大山の「おもと学級」から約120人が参加してコーラスを楽しみました。

歌唱指導は、福永恭子さん(赤坂)。まずは歌のリズムにあわせて体をポンポンたたき、準備体操からスタート。前半では「スキー」「もみじ」などの童謡・唱歌を、後半には「二人は若い」「草津節」といった懐メロや民謡を歌って盛り上がりました。「静かな湖畔」では輪唱にも挑戦。歌うにつれ、だんだん大きな声が出て輪唱もバツチリ決まりました。

最後は「ふるさと」をみんなで歌い、楽しいひとときはあつという間に過ぎていきました。

社会教育振興に貢献 西伯郡社会教育協議会長表彰

地域で積極的に社会教育活動に取り組んでいるとして、権田一幸さん(中西西区)が2月22日、伯耆町鬼の館で開かれた鳥取県西部地区町村社会教育研究大会で、西伯郡社会教育協議会会長表彰を受けられました。

権田さんは、町体育指導委員として、各種のスポーツ活動の普及に尽力され、特にサッカースポーツ少年団の指導者として、子どもたちの技術向上に力を注いでこられました。

また、名和マラソンフェスタ、大山クロスカントリー大会、皆生トライアスロンなどスポーツ大会の運営に積極的にかかわり、地域の体育振興に貢献したことが評価されました。



▲表彰状を手にする権田一幸さん